

すっぴんの家

コラージュ(切り張りの絵)を元に、住み手の要望を素直に表現する。材料の素地をありのままに生かす。敷地に対して正直に、本当に欲しい家を探す、モダンプロセスとは……?

photo: Y.YAMADA 天田芳明 tex: Y.YAMADA 山田芳弘



Aナタのライフスタイルは?と聞かれて即答できる人って、なかなかいないモノです。「出勤前にジョギングして、夜は照明を落とした書斎で読書。休日は友人とBBQ……」そこまで考えて、それは現実ではなく、『理想の生活』であると気がついて考え込んでしまつ……そんなモノです。家を建てるとなると、普段はさほど気にしないままに過ぎていくりアルな毎日を、もう一度見つめ直さなくてはなりません。自分のライフスタイルにあった一生モノの住宅とはなにかを、想像する作業が必要なのです。

建築家の連建夫さんは、建て主の希望を知るために、コラージュを活用しています。「ご家族それぞれに、雑誌の切り抜きや写真などを一枚のボードに自由に貼つてもうのです。住宅雑誌の記事や廣告が必要はありません。リゾート地の海岸、古いクルマ、友達と写っているスナップなどなんでもOK。写真的切り方ひとつとっても、定規できっちりと切った四角形やフリーハンドでざっくりと切った形などさまざま。凡帳面に左右対称にレイアウトしたモノ、文字やイラストの書き込んだ一枚などなんでもあります。ピックアップ

した写真もそうですが、色遣いやレイアウトにも、個性が反映されるのはいうまでもありません。大切なのは、自分にとって好ましいと思うモノを、素直に集めるコト。そこに、自分でも気がつかなかつた夢や希望が浮かび上がってくるというのです。

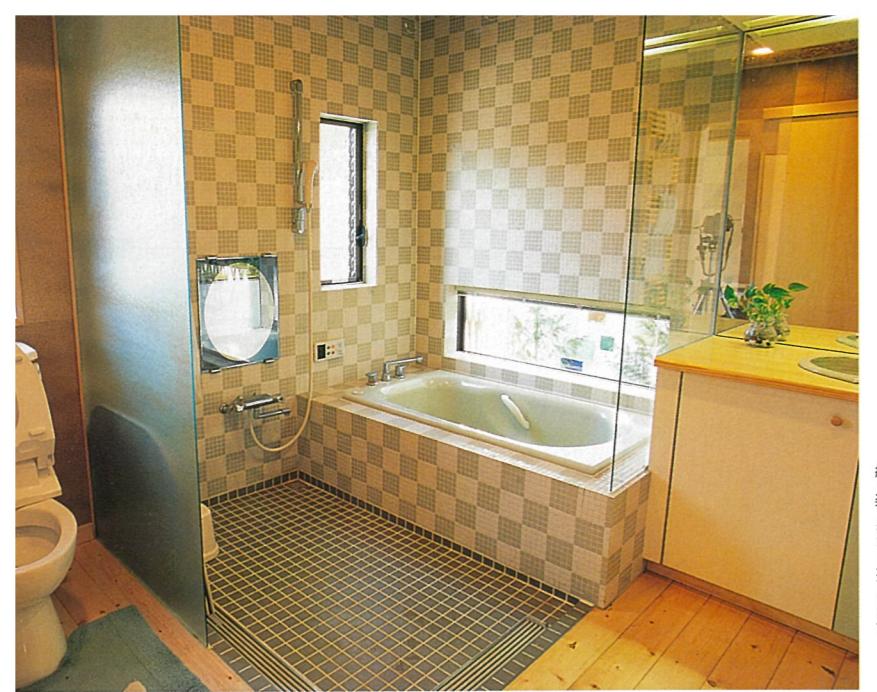
完成したコラージュを前にしてお施主さんと打ち合わせをするとき、色々なアイディアが生まれてくるとか。「これはユング心理学を建築に応用したきわめて希な例ですが、連さんは具体的なプランをたてる以前に、お施主さんと対話する期間を非常に大切にしています。

見つけた目は和紙そのもののワーロンシートという塩ビ系の素材で、蛍光灯を覆っただけのライトは、ローコストかつ美しい。

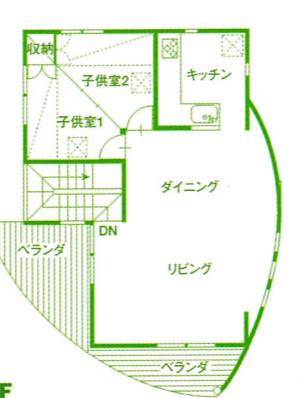
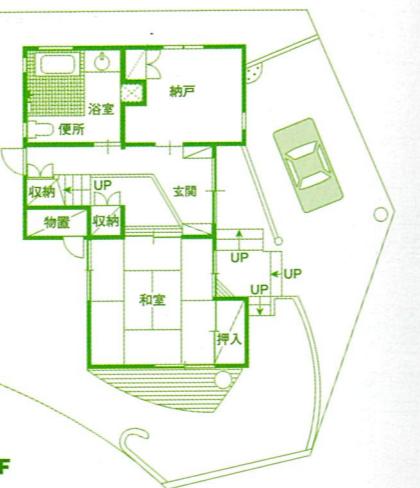
リビングの壁にはご覧の通り「孔」が。構造体の木に呼吸させるためですが、これが耐久性に大きく関わってきます。



こぐれた2階のリビングは通気性も最高で、夏場のエアコン稼働率も低く抑えられています。ご夫婦のスタディコーナーがリビングのていますが、「親が働いている姿を子供に見せるのはいいことだと思いますよ」との考え方から。ロフトには、子供部屋からもリビングからつかってアクセス可能です。



トイレと洗面
欧米スタイルの浴室が一体となった
外には、坪庭的な場所が設けてあります。
緑を楽しむコトができるます。



タオル掛けは輻射式の暖房器具となっており、タオルの乾燥と、浴室の暖房をこなすマルチタレント。スウェーデン製のPS暖房器具は、カラーも豊富にそろっているとか。



子供部屋の壁と天井は、素地の
プラスチックボードがそのまま使
用されており、自由に絵を描く
こともOK。小屋裏へつながる
梯子は秘密基地への通路。



中学2年と小学6年のお子
さんの部屋。3本引きの扉
で、必要に応じてプライバ
シーを確保することができます。



New Age Modern House.

敷地面積:139.74m² / 延床面積:108.27m² / 構造:
在来工法 / 階数:2階建て / 基礎:ベタ基礎、布基礎/
材:ウレタンフォーム / 外壁仕様:ガルバリウム鋼板小波、
タル金ゴテ撥水剤、手作りタイル / 室内床材:パイン材フ
リング / サッシ:アルミ製サッシ / 屋根:ガルバリウム鋼板
葺き、ゴム撥水シート
工費:2200万円

■建築研究所/ CALL 03-5456-5134

URL http://www.geocities.co.jp/Hollywood/8372

・建築/(有)連健建築研究室一級建築士事務所 設備/島津設計事務所、EOS設備工房
:(株)くらし建設 大工:笛井辰二



東、南、西の三叉路に面した連邸の敷地。奥様のコラージュからヒントを得た“水滴”を、敷地に逆らわずにレイアウトされています。1階の和室が土間へ続く玄関も含めて、3方向に開口していて、地域とのコミュニケーションの場として解放することができるようになっています。



地域にも解放された、明るくモダンな“和室”

今回紹介する連(むらじ)さん、「自身のお宅を建てるときも、ご家族全員でコラージュを作りました。そこから立体物に変換する作業は建築家である御主人の仕事です。たとえば曲面が用いられ、”水滴”形状の外壁は、奥さんの切り抜いた写真の形を反映させたモノ。”長男のコラージュからのヒント、格子は、和室の光壁や天井、バルコニーのスリットに活かされています。”通り抜けと見上げると空が見えるように。三叉路に面して少し飛び出している敷地をいかして、風通しもよくなっています。1階の和室と土間は、”和”的な良さである開放感を最大限に活かすために、将来的には地域の人々に解放できるベースにする予定とか。そして、連さん自身の提案は”手作り”。手作りのタイルを家族で張ったり、各部屋の取手のつまみをそれぞれで作りました。大工や左官が昔ながらの腕をふるえる木造の納まりや、干ルタル仕上げにしたのも同じ視点からです。また、連邸では内壁に使われたパーティクルボードや、天井のOSBボード、節ありを選んだスプルースも壁紙で隠していません。材料をできるだけ素地のままで使い、家族の意見を素直に反映させた“すっぴんの家”は、建て主のイメージを理解し、それを建築家が具体化した一例です。奇抜な形の押しつけではない、翻訳作業に近い建築家からの提案は、理想の家造りに欠かせないモダニアプロトチといえないでしょうか。

